

第24回 中国語学科スピーチコンテスト

外国語学部 中国語学科 実行委員会

中国語学科では、毎年「外国語学部文化ウィーク」の一環としてスピーチコンテストを開催し、学生たちが日頃の学習成果を発表する機会を提供しています。この取り組みは、中国語学習への理解と関心を深めると同時に、学生の学修意欲をさらに高める貴重な機会となっています。

その伝統を継承し、2025年1月15日午後、みなとみらいキャンパス米田吉盛記念ホールにおいて、中国語学科主催、人文学会後援による「第24回スピーチコンテスト」が開催されました。

本コンテストは、暗唱部門、初習クラススピーチ部門、既習クラススピーチ部門の三部門に分かれて実施され、合計14名の学生が出場しました。暗唱部門では、指定された三つの課題文の中から一つを選んで暗唱し、発音・抑揚・表現力などが審査されました。スピーチ部門では、「中国」や「中国語圏」に関連する自由なテーマでの発表が行われ、飲食、文化、留学体験、言語学習、日常生活に関する話題など、多様な視点からの発表が聴衆の関心を引きつけました。

当日は、開会のあいさつに始まり、審査員の紹介、審査方法の説明が行われた後、各部門の発表へと移りました。参加者一人ひとりが練習の成果を存分に発揮し、会場には熱気と緊張感が漂いました。発表の後には、審査員からの講評と講評をふまえた審査結果の発表が行われ、各部門で優れた発表を行った学生に対して表彰が行われました。最後は閉会のあいさつをもって、コンテストは盛況のうちに幕を閉じました。

以下では、当日の様子をより詳しくお伝えするため、発表の内容や、司会者・参加者の感想などをご紹介いたします。



スピーチコンテストを終えて

高梨 愛華

法学部自治行政学科
暗唱部門二等賞



このスピーチコンテストには、新しいことに挑戦したくて参加しました。私は中国語を習ったことはなく、きちんと人前で話すことができるか不安でした。しかし、練習会に参加することにより周りのレベルの高さに驚き、より一層気を引き締めて参加しなければと思いました。そして、他の参加者の方や先生に実際に会ってアドバイスを貰えたことはかなり良い刺激と経験になりました。

本番は緊張しましたが、今までの練習の成果を出すことができて良かったです。次はもっと上手くなれるようにこれからも中国語の勉強を頑張りたいと思います。

今回のスピーチコンテストへの参加は、目標にもなり、今後の勉強のやる気にも繋がったので本当に良かったです。ありがとうございました！

平良 大輝

外国語学部中国語学科
スピーチ部門
初習クラス一等賞



この度は初習者スピーチ部門において一等賞を取れたことを嬉しく思います。本大会に参加するにあたって、テーマ決めに苦戦しました。テーマは自身の身近な中国との関わりに焦点を当て、私の地元である蒲田の羽根つき餃子店を紹介しようと考えました。お店の餃子の特徴だけでなく歴史も調べることで、より深い内容になったと思います。スピーチに関しては何度も練習を繰り返し、自分の音声を録音して聞き返すなどしました。本番では練習期間だけでなく、今まで3年間中国語を学んできた成果を発揮できたと感じています。

私はあまり積極的にこのようなイベントに参加する性格ではなかったのですが、この経験を通して自分の語学力に自信がつき、今後も様々なことに挑戦し残りの学生生活を悔いがないよう過ごしたいです。

薛 艶欽

外国語学部中国語学科
スピーチコンテスト司会



今回は、中国語学科のスピーチコンテストで司会を担当させていただきました。このような貴重な機会をいただき、とても光栄でした。文学をテーマにした大会に関わるのは、今回が初めてですが、司会という立場で参加したことで、私自身もたくさん学ぶことができました。

初習クラスの学生たちは、教科書の文章を暗唱する形式でしたが、どの学生も真剣に取り組んでいて、すごく感心しました。私は中国人ですが、あれほど感情をこめて、はっきりと文章を暗唱するのは自分にも難しいと感じました。だからこそ、あの発表をやりきった皆さんは本当にすばらしいと思います。

既習クラスの学生たちは、自分で書いた中国語の文章を暗唱していて、その内容にも表現にも驚かされました。私は日本に来て何年も経ちますが、自分で文章を書く力が少し弱くなってきたように感じていたので、学生のスピーチを聞いて、「私もまた作文を書きたい」と思いました。

今回のスピーチコンテストに関わることができて、本当に良い経験になりました。もっと多くの人々が、このコンテストに興味を持ってくれると嬉しいです。